

久留米地区における小児事故の実態と モニタリングに関する考察

(分担研究：小児の事故とその予防に関する研究)

小野栄一郎, 橋本信男, 末吉圭子, 弓削 建

要約：久留米市では小児の救急患者や2次医療を要する急性疾患の大半は聖マリア病院に来院しており、当院の小児事故症例を分析することが同地区の小児事故の実態をある程度反映すると考えられた。当院の小児事故症例は年間3,177例で、内、約半数が家庭内事故であったことより、家族に十分な安全教育を行えば小児事故の半数は防止可能であると考えられた。特に、年齢では4歳未満が半数(49%)であり、乳幼児健診時の母親教育は防止に有用と思われる。

見出し語：福岡県久留米市、小児の事故の実態、モニタリング、予防

研究目的と方法：

ある地区における小児の事故の実態を正確にモニタリングすることは非常に困難である。久留米市では小児救急患者の多くが聖マリア病院に集中来院することから、同市における小児事故の実態を知る目的で聖マリア病院の小児事故症例を分析した。また同市における聖マリア病院への患者集中度を知る目的で、久留米市消防署救急車の出動状況を調査した。

結果および考察：

(1) 聖マリア病院小児科の概要

① 病院の規模：当院は福岡県久留米市にあり24時間の救急医療(全科)を行うベッド総数1420床の私立病院である。内、小児科は71床(一般病棟36

床、小児ICU35床)で、小児科医は常勤医6名と研修医3名の計9名である。

② 外来部門：外来は日勤外来(8時半から17時)と、夜間救急外来(17時から翌朝8時半)からなる。

1992年の小児科外来患者総数は48,036名/年(病院全科361,175名の17%)であり、その内、小児科救急患者数は19,241名(病院全科44,988名の42.8%)であった。小児救急患者は小児科受診の19,241名と小児科以外の診療科受診の2,904名の計22,145名である。

③ 小児科受診の小児救急患者(19,241名)：来院時間は昼間25%(4,773名)、準夜58%(11,087名)、深夜17%(3,381名)で、搬入方法は消防署救急車1.8%(349名)、本院救急車0.1%(15名)、その他(マ

聖マリア病院小児科(Dep. of Pediatrics,
St. Mary's Hospital)

イカーを含む) 98.1% (18,877名) であり、重症度は軽症96% (18,485名)、中等症 2.5% (483名)、重症 1.5% (273名) であった。曜日では日曜祭日 42.7% (8,221名)、平日 57.3% (11,020名) である。小児例の 3.2% (621名) がその後入院を必要とした。患児住所は久留米市が 46.7% と最も多く、同市を中心に半径 30km の地域より 93% が来院していた(図 1)。

(2) 聖マリア病院への患者集中度

①久留米市周辺の医療現況：久留米市(人口 228,665 人)には小児を扱う病院(以下、括弧内は特徴/年間外来患児数/年間入院患児数)として久留米大学病院(3次医療が中心/24,020名/1,300名)、国立久留米病院(1次と救急度の少ない2次医療/9,500名/350名)と聖マリア病院(24時間体制の救急度の高い2次医療/48,036名/1,800名)の3つがあり、それぞれ機能が異なる。紹介医(開業小児科医；市内に14名で夜間診療はしない)も3病院の特徴をよく理解して患者を紹介し、うまく病診連携がなされている。その結果、久留米市で発生する急性疾患や救急疾患の大半が本院を受診する。

②聖マリア病院へ救急搬送した救急車の所属署別内訳：1992年の当院への搬入総数(全科)は4,925件で、本院救急車は1,169件(23.7%)、本院以外の救急車は3,756件(76.3%)であった。後者の内訳は福岡地区総数3,115件(63.3%)、佐賀地区総数548件(11.1%)、その他93件(1.9%)であり、福岡地区では久留米署が76%(2,377/3,115)と最も多く、その他に筑後地区一円の消防署から搬入されている。

③久留米市消防署の救急車の出動状況：1992年度の久留米市消防署救急車の総出動数は年間4,783件であり、搬入先は50%(2,377件)が聖マリア病院であった。年齢を小児に限れば、0～6歳は73%

(241/338件)、7～17歳は54%(197/364件)、小児全体では62%(438/702件)が当院に搬入されており、久留米市の小児救急患者の多くが当院に集中来院することが分かる。①、②、③より当院の小児事故患者の分析は、ある程度久留米市の小児事故の実態を反映すると考えられた。

(3) 聖マリア病院における小児事故の実態

当院受診の小児事故患者を小児科外来受診者①と小児科以外の外来受診者②に分けて検討した。

①小児科外来受診の事故患者

年間平均 273 例で内、誤飲事故¹⁾は年間平均 266 例(1988～1991年の4年間に1,063例)で、溺水²⁾は年間平均 7.43 例(1975～1988年の14年間に104例)であった。

②小児科以外の外来受診の事故患者(表 1, 2, 3)

1992年に小児科以外で診療した小児事故患者は年間2,904例(1カ月平均242例)で、男児1,787(61%)、女児1,117(39%)であった。月別では5月と9月の運動会の季節に多く(表1)、年齢では4歳未満が男児で44%、女児では56.6%(男女全体で49%)と、共に年少者に高頻度であった(表2)。性別では全年齢層で男児が女児数を上回り、全体では男女比6:4であった。事故内容(1992年の偶数月6カ月間1,395例の集計)は転落が24.7%と最も多く、打撲(捻挫含む)20.8%、転倒13.5%、交通事故9.2%、熱傷8.1%で、以下、表3に示す通りであった(表3)。以上より、小児の事故の半数は4歳以下の低年齢層に多く、特に男児に多いことより、乳児幼児検診での母親教育が事故防止に有用と考えられた。

③小児科および小児科以外の外来受診した救急患者の合計(①+②)

当院の小児事故症例は年間3,177例(100%)で、
内、小児科受診者は273例(8.5%)で、小児科以外
の診療科受診者が2,904例(91.5%)であった。そ
の内、家庭内での事故は1,705例(53.7%)であり、
これらは家族への安全教育で事故防止が可能と考
えられた。

文 献

- 1) 橋本信男：誤飲・誤嚥，福岡救急医学会編・
救急治療マニュアル〔三訂版〕．九州大学出版会，
1992：255-263.
- 2) 橋本信男：小児溺水症とその予後，小児科学
年鑑1989，小児科の進歩，1989：140-143.

図1 聖マリア病院小児科受診の救急患者地域分布
(救急患児総数：19,241名) (1992年)

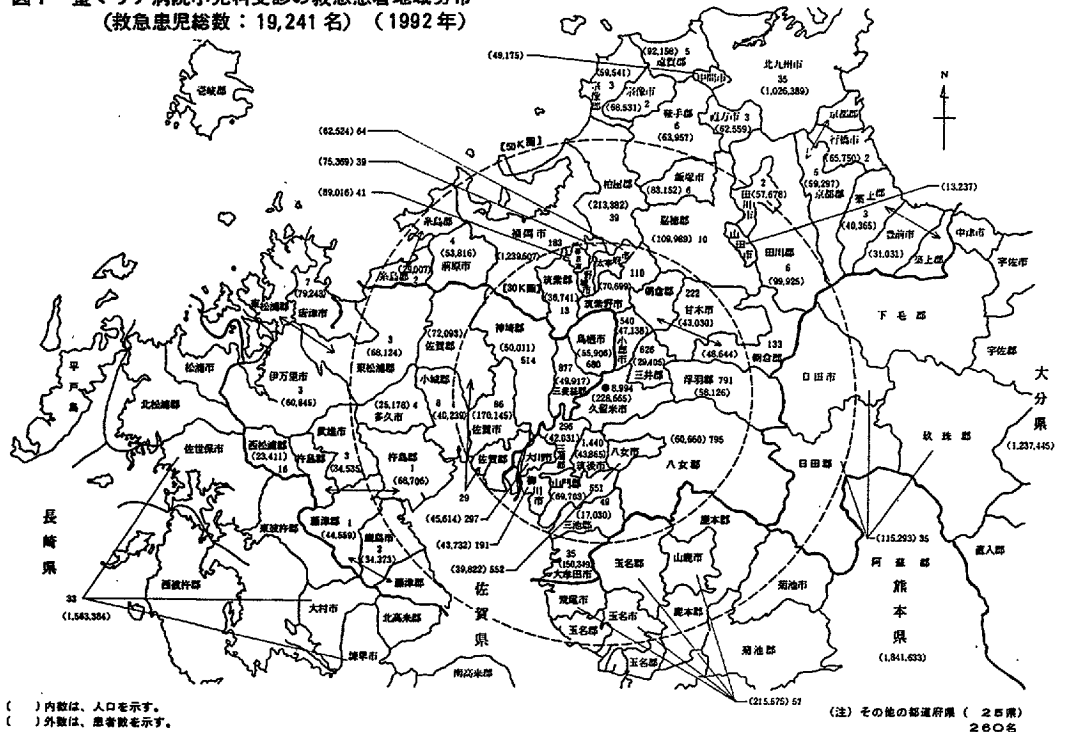


表1 当院における子供の事故：月別・性別・事故の場所
(小児科以外の外来受診) (1992年)

月別	総数	男児	女児	家庭内	家庭外
1月	219	124	95	134	85
2月	170	102	68	101	69
3月	228	149	79	118	110
4月	258	153	105	114	144
5月	292	194	98	118	174
6月	263	157	106	106	157
7月	257	169	88	108	149
8月	248	146	102	143	105
9月	288	174	114	141	147
10月	235	145	90	119	116
11月	225	136	89	117	108
12月	221	138	83	113	108
合計	2904	1787	1117	1432	1472

(聖マリア病院)

表2 子供の事故(小児科以外の外来受診)の年齢層(1992年度の偶数月)

年齢層	総数	男児	女児
①4歳未満	684 (49.0%)	369 (44.0%)	315 (56.6%)
②4歳以上7歳未満	285 (20.4%)	186 (22.2%)	98 (17.6%)
③7歳以上13歳未満	320 (22.9%)	214 (25.5%)	106 (19.0%)
④13歳以上16歳未満	107 (7.7%)	69 (8.2%)	38 (6.8%)
合計	1395(100.0%)	838(100.0%)	557(100.0%)

(聖マリア病院)

表3 子供の事故内容と月別(小児科以外の外来受診者)-1992年の偶数月の集計-

	2月		4月		6月		8月		10月		12月		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
(1)転落	19	15	33	22	31	24	39	25	47	31	31	28	200	145
(2)打撲(捻挫含む)	23	16	37	20	40	16	29	20	34	15	29	11	192	98
(3)転倒	14	7	21	15	21	14	22	14	15	13	18	14	111	77
(4)交通事故	8	2	16	6	20	16	19	8	8	4	15	7	86	43
(5)熱傷	7	11	10	9	14	8	9	8	10	1	18	8	68	45
(6)切創	7	7	4	2	8	6	9	6	8	5	8	1	44	27
(7)物が当たる	8	3	10	7	7	2	5	4	9	5	7	3	46	24
(8)挟む(手足)	4	3	9	14	1	4	6	5	8	6	3	5	31	37
(9)手を引っ張る	6	3	4	2	3	9	3	7	2	4	1	3	19	28
(10)異物	1	1	5	4	4	3	4	2	3	3	5	1	22	14
(11)咬傷	2	3	3	3	8	4	1	3	1	3	3	2	18	18
合計	99	71	153	105	157	106	146	102	145	90	138	83	838	557

(聖マリア病院)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:久留米市では小児の救急患者や 2 次医療を要する急性疾患の大半は聖マリア病院に来院しており,当院の小児事故症例を分析することが同地区の小児事故の実態をある程度反映すると考えられた。当院の小児事故症例は年間 3,177 例で,内,約半数が家庭内事故であったことより,家族に十分な安全教育を行えば小児事故の半数は防止可能であると考えられた。特に,年齢では 4 歳未満が半数(49%)であり,乳幼児健診時の母親教育は防止に有用と思われる。